

光 寿 無 量

新しい年を迎えました。旧年中は金光寺の護持にお力添えをたまり誠にありがとうございました。

本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年十二月二十七日に年賀状の購入、印刷を行い、二十七日に何とかポストに投函できました。元旦に届くには二十五日までにポストに投函しないといけなかったようです。届けばいいな、何とか届かないかなと思ったことでした。

年賀状を作成しながらいつも思うのは、年賀状をお互いに出すのはやめにならないかなということ。郵政省がお年玉付き年賀ハガキを作成したことから年賀状を出すことが一気に日本中に広まったそうです。最初は一等の景品も豪華でしたが、最近景品も随分ちやちやになって、ます

ます、年賀状廃止の機運は私の中で高まっています。

そういながら元旦の朝に届いた年賀状を見、出した方のお顔を思い出すことを楽しみにしている自分もいます。

ところで、本誌三頁の新年のあいさつにも使用していますが、「光寿無量」という言葉、お寺からいただいた年賀状によく使われています。私も今回の年賀状には使用しませんでした。過去、何回も使わせていただきました。

光寿無量、実は略されています。正式には光明無量と寿命無量が合わされて光寿無量になります。

では、光明無量と寿命無量とは一体どういうことでしょうか。

その昔、法蔵という菩薩さまが四十八の願いを建てられ、その願いを成就するために長い時間ご修行をなされて、願

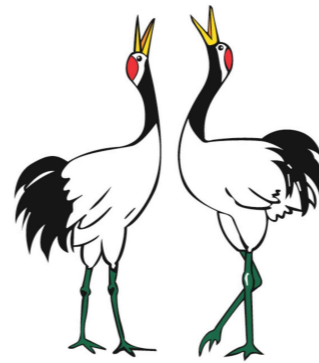
いを成就されるとともに悟りを開かれ阿弥陀という仏になられました。

その四十八の願いの中、親鸞聖人が真実とされた願いが五つ（真実五願という）あります。その中、第十二願を

「光明無量の願」第十三願を「寿命無量の願」といいます。

「光明無量の願」とは 救いのはたらき（光明）に限りがある、全ての世界を照らすことができないようなら悟りを開かないという願いです。

「寿命無量の願」とは 寿命に限りがある、はかりしれない遠い未来にでも尽きることがあるような



ら悟りを開かないという願いです。

この「光明無量」を別の言葉で表すと「どこでも」と、「寿命無量」を別の言葉で表すと「いつでも」と表現できます。

この「光明無量」と「寿命無量」は阿弥陀さまのお慈悲の表われです。阿弥陀さまは娑婆世界にあって悩み苦しんでいるこの私を、あなたがどこにいようと、いつでもあろうとも「どこでも、いつでも必ず救うぞ、常に寄り添い見守るぞ」とはたらき続けてくださいます。

新年の挨拶状に「光寿無量」と書くのは、「年の初めに改めて阿弥陀さまのお慈悲に包まれている我が身をよろこび、お慈悲に生かされながら、お念仏申させていただく日々を歩ませていただくぞ、という思いを共にいたしましょう」との思いといたされています。二〇二二（令和四）年、年の初めに、「南無阿弥陀仏」と申させていただくご縁をよろこびましょう。

法語の世界

〈原 文〉

享禄二年十二月十八日の夜、兼縁夢に、蓮如上人、御文を あそばし下され候。その御詞に、梅干のたと候。梅干のこ とをいば、みな人の口一同に酸し。一味の安心はかやうにある べきなり。「同一念仏無別道故」論註 下二二〇の心にて候。 つるやうにおぼえ候云々。

（『蓮如上人御一代記聞書 二百六十七』）

〈現代語訳〉

これは蓮悟さまの夢の記録です。享禄二年十二月十八日の夜の夢である。蓮如上人がわたしに御文章を書いてくださった。その御文章のお言葉に梅干しのたとえがあり、「梅干しのことをいえば、聞いている人はみな口の中が酸っぱくなる。人によって異なることのない、一味の安心はこれと同じである」と記されていた。これは『往生論註』の「だれもが同じく念仏して往生するのであり、別の道はない」という文のころをお示しになたように思われる。

光 寿 無 量

新年あけまして おめでとうございます

本年も どうぞよろしく願います

二〇二二（令和四）年 正月

金光寺役員一同
金光寺寺内一同

11月の天候

最低気温・ -6.2℃ (26日)
最高気温・ 16.4℃ (11日)
冬日日数・ 24日
真冬日日数・ 1日
月間総雨量・ 49.0mm(降雨日数・ 7日)
一日最大雨量・ 23.5mm (16日)



▲ 高橋楓花ちゃん初産式の一コマ（12月5日）
（緒方辰美さんのお孫さんです）